



農協だより

食農教育で小学校へ訪問しました！

食農教育の一環で5月13日海田町立海田小学校の5年生64名、5月29日には坂町立横浜小学校4年生の50名を対象に『総合学習』の授業の中で「バケツ稲づくり」に取組み、種まきを行いました。JA広島中央会の「バケツ稲づくり」セットの「コシヒカリ」と「日本晴」の種モミ、肥料、観察ノートを配布し、用土を詰めモミ種を播きました。JA安芸営農指導センターより稲の生長について説明して、植物にはいろいろな決まり事があり観察する楽しさと、お米は農家の方が一生懸命作っていることを話しました。生徒達は、ペットボトルの中へ種モミを入れ浸種して芽の出方を観察しており、皆、土や種籾に触れて楽しく学んでくれました。これから、苗の生長をじっくり観察してお米の大切さ、いのちの大切さを勉強してもらいたいと思いました。



ご案内

稲作講習会

場 所 : JA安芸各支店
 時 間 : 午前の部 10時～・午後の部 1時30分～
 講習内容 : 田植後の管理と本田防除について～

日時	6月10日(月)		6月11日(火)		6月12日(水)		6月13日(木)		6月14日(金)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
会場	畑賀 2階	中須賀 2階	東海田 2階	阿戸 2階	上瀬野 3階	中野 2階	瀬野 2階	熊野 2階	追分	初神 老人集会所

広島市農業振興協議会総会

5月20日にJA広島市本店において総会が開催されました。副会長より「今回で20回目の総会となりましたが、TPP交渉をめぐる農業も厳しい状況となっていますが、都市近郊農業の利点を生かしてがんばって行きましょう。」と挨拶がありました。議案は24年度の決算報告や25年度の事業計画が報告され、無事了承されました。

また、総会終了後にはJA広島中央会の上野農政営農部長より「TPP交渉をめぐる情勢報告」について記念講演がありました。

坂町菊作り講習会

坂町より「菊づくり」体験学習の講師依頼があり、5月16日営農指導員を派遣しました。午前には開講式があり、その後、菊づくりについての講習会を行いました。午後からは現地講習として、畝立・定植を行いました。参加者12名のうち多数の方が毎年この体験学習を受講されていて、作業の手際の良さや知識には非常に感心しております。



5月17日に平成25年度JA安芸新入職員の農業体験研修を育苗センターで行いました。今回は水稻苗の緑化作業では、ビニールハウスの中でベルトコンベアーから運ばれてくる発芽苗箱3,780枚を一枚一枚地べたへ並べていく作業を行いました(箱出し)。この日は気温も高く締め切ったハウスの中では温度が45℃にもなり、汗だくになりながら農業の大変さを学んでいました。「こんなに暑い中、繊細な作業をしないと、お米が作れないとは思いませんでした」(熊野支店・松本)「田植えの前に、種まきや箱出しがこんなに労力が掛り、大変だと感じました」(坂支店・牧原)これから先も新入職員の農業体験を見守っていききたいと思います。

新入職員研修



6月営農メモ

水稲

◎水管理による莖数の調整

除草剤を効かした後は浅水が間断かんがいにします。(除草剤散布後、7日間は落水しないでください。)灌水は夜間や早朝にし日中は水を留めて水温上昇を図るようにしましょう。晴れていれば5~10度、曇雨天でも2~3度は高まります。水管理を徹底し分けつの促進と根の健全化を目指しましょう。ただし漏水田での田干しのやりすぎは雑草が発生し易く(除草剤の効果が落ちる)になりますので注意しましょう。

◎根ぐされ・酸素欠乏対策

気温上昇とともに田がわくため田植え2~3週間後に葉が黄化する「赤枯れ」症状が発生することがあります。水温が低い時でも発生します。10日に1~2回足跡に水が残る程度に水管理をして、土壌のガス抜きをして根の活力を回復させます。

◎中干し

目標莖数(コシヒカリ・ヒノヒカリ 18~20本/株、あきろまん 19~20本/株、ココノエモチ 22~24本/株)の7~8割分けつしたら、中干しを開始します。中干しは無効分けつ抑制、根の健全化、莖が太くなる、葉が直立する、土壌のガス抜きなどの効果があります。水持ちの良い水田では強めのひび割れ5~6mm、水持ちが普通であれば弱めのひび割れ(1~2mm)、水持ちが不良であればしないか、しても浅水または足跡に水が残る程度で済ませます。分けつの早いものでは6月15~20日頃から始めて幼穂形成期の4~5日前に終わるようにしましょう。(7月中頃まで)十分中干しが出来た水田では、一度に深水にせず走り水か浅水で管理してください。

◎中間追肥とつなぎ肥

ヒノヒカリ・あきろまんでは幼穂形成期(出穂前25日)の5~7日前までに穂肥が出来るぐらいの肥切れが良いですが、早い時期から肥が切れるようであれば追肥をします。穂肥までに20日以上あれば多木V化成で10kg/10a程度施肥し、7~15日前ではつなぎ肥として1回に5~6kg/10a以内と少なめにします。

◎病害虫の防除

水田の置き苗はいもち病の発生源になるので早めに取り除きましょう。その他、ウンカ類や紋枯病については圃場の条件や今後の発生予報に注意して早めの対応をしてください。

◎中期・後期除草剤

田植え前後の除草剤を使用しても雑草が残った場合に使用します。

草種や時期によって適正な農薬がありますので稲作ごよみなどを参考にしてください。

~ 農薬散布前に必ずラベルを確認してください! ~

果樹

イチジク

今年は平年より約10日ぐらい早い5月下旬に梅雨入りいたしました。この時期は多くの作物に共通していますが、園内に排水溝を掘るなど梅雨の湿害を防ぐ対策をします。

イチジクは根の酸素要求度が高く耐水性が弱い果樹です。また、根の分布はきわめて浅く水分を多く必要とします。土壌が湛水または過湿状態になると湿害が生じ根の枯死や吸水力の低下、葉の萎凋や落葉を引き起こし翌年の生育や着果、果実肥大にも影響を与えます。

また、湿害の発生しやすい園は干害にも弱いことが多いので7月上旬の梅雨明け前に敷きわらを行い梅雨明け後の乾燥に気を付けます。

施肥 施肥のポイントは新梢の下位節から果実が順に着果・肥大する時期6月に肥効が高まるよう追肥をします。標準的に1樹あたり燐硝安加里604を300g施します。

防除 アザミウマ類・カイガラムシ類・キボシカミキリの防除時期でモスピラン水溶剤の2000倍を使います。また、そうか病対策にトップジンM水和剤1500倍を使います。根に小さなコブができており樹勢が弱っている場合はネコブセンチュウの被害にあっていいる可能性がありますのでネマトリエース粒剤を2kg/a(収穫60日前まで)処理します。

野菜

追肥 果菜類は6月になると生育が旺盛となり、早い物では5月下旬頃より収穫が始まりますので、肥切れさせない様に樹勢を見ながら追肥を行いましょう。(枝の先端付近で花が開花していれば肥料が切れた状態となっていますので、即時追肥を行ってください。)

整枝 葉や枝が込み合ってくると病気が発病しやすくなります。また、樹冠内が暗くなるとアブラムシやハダニの発生も多くなるので、晴天日には枝の整理を行います。

摘果 果菜類で実が着きすぎた場合や傷果、変形果は果実が小さい内に取り除きましょう。
梅雨対策 中旬頃になると梅雨入りし、圃場によっては長雨で冠水する事がありますが、半日以上冠水すると作物の根が傷み生育が停滞する事がありますので、排水対策をしておきましょう。また、降雨により下葉に泥が付くと、病気になるやすいので敷きワラなどを行い、泥ハネ対策もしておきましょう。

病害虫 5月下旬頃よりうどんこ病やニジュウヤホシテントウやウリハムシなどの被害が多くなります。梅雨に入ると疫病、べと病、等の病気が発病しやすくなりますので、早目に防除しましょう。

- ・ニジュウヤホシテントウ オルトラン水和剤、アディオン乳剤、モスピラン水溶剤など
- ・ウリハムシ モスピラン水溶剤、マラソン乳剤、など
- ・うどんこ病 トリフミン水和剤、モレスタン水和剤、水和剤など
- ・疫病、べと病 リドミルMZ水和剤、プロポーズ果粒水和剤など

たまねぎ 6月中旬には晩生のたまねぎが収穫時期となりますが、今年は5月上旬より白色疫病の被害が多く、貯蔵中に菌が首を伝って玉を腐敗させる事がありますので、収穫前日までにトップジンM水和剤1,000倍を散布して予防しておきましょう。